

## 「タマルの逆襲」

2021年06月02日

彼女は引きずり出されたとき、しゅうとのもとに人を送って言った。「この品々の持ち主によって私は身ごもったのです。」そして続けて言った、「どうか、このひもの付いた印章と杖が誰のものか、お確かめください。」ユダはそれらをお確かめして言った。「彼女のほうが私よりも正しい。息子のシェラに彼女を与えなかったからだ。」ユダは再びタマルを知ることにはなかった。(創世記 38 章 25 節～26 節)

ユダは、エル、オナン、シェラの3人の男の子を得た。長男エルにタマルという妻を迎えた。エルは神の目に悪とされ、殺された。レビレート婚に従い、次男オナンがタマルを妻にしたが、子どもが生まれることを拒み、精液を地に流した。これが、神の目に悪とされ、殺された。三男シェラがタマルを妻にしなけりなかつたが、エルやオナンのように死ぬことを恐れ、ユダはシェラが成人するまで待つようにと言って、実家に帰した。

かなりの日が経って、シェラが結婚できる成人になつても、タマルは離婚もされず、寡婦として、実家に放置されたままだつた。そして、ユダの妻が死んだ。喪が明けると友人のヒラと一緒に、タマルの実家のあるティムナに上つて行つた。その時、ある人がタマルに、「あなたのしゅうとが、羊の毛を刈るために、ティムナに上つて来ます」と告げた。タマルは、シェラの妻にしてもらえないことに対し、逆襲の決心をする。やもめの服を脱ぎ、ベールをかぶつて身を覆い、ティムナの街道沿いのエナイムの入口に座つた。ユダは彼女をタマルとは知らず、遊女だと思ひ、近寄り、「さあ、あなたのところに入ろう」と声をかけた。彼女は「私のところに入るのに、何をくださいますか」と言うので、ユダは、「群れの中から子山羊を送ろう」と答えた。しかし彼女は、「では、それを送つてくださるまでの間、何か保証の品をくださるでしょうか」と言うので、「どんな保証の品がいいのか」と尋ねると、「ひもの付いた印章と、手にしておられる杖です」と答えた。ユダはそれらをお渡し、彼女のところに入つた。タマルはユダによって身ごもつた。彼女はベールを脱いで、やもめの服を着た。生きる場を奪われたままだつたことに対するタマルの逆襲である。

ユダは友人のヒラに子山羊を託し、タマルの手から保証の品々を取り戻そうとした。ヒラは「街道沿いのエナイムにいた娼婦はどこでしょうか」と尋ねたが、人々は、「ここには、神殿娼婦などいません」と答えるばかりであつた。ヒラはユダに、「女を見つけることはできませんでした。土地の人々も、『ここには神殿娼婦などいません』と言うのです」と伝えた。ユダは、「では、保証の品はあの女に取らせておこう。蔑まれては困るから。」と、自分の恥を覆い隠したままだつた。

3ヶ月ほどして、ユダに、「あなたの嫁タマルは売春をしました。しかも、売春によって身ごもつています」と、知らせる者がいた。ユダは激怒して、「あの女を引きずり出し、焼き殺してしまえ」と言った。彼女が引きずり出された時、舅のユダに人を送つて、言った。「この品々の持ち主によって私は身ごもつたのです。」続けて、「どうか、このひもの付いた印章と杖が誰のものか、お確かめください。」ユダは、それらをお確かめ、「彼女のほうが私よりも正しい。息子のシェラに彼女を与えなかったからだ」と、自分の過ちを認め、悔い改めた。以後彼女を知ること、性的関係を持つことはなかつた。タマルはペレツとゼラの双子を産んだ。ペレツの子孫にダビデ、そして、キリストへと繋がつていく。彼女の苦肉の逆襲は、神の祝福を得、また、ユダの潔さを伝えている。